

文化審議会第2期博物館部会（第2回）

議 事 次 第

日 時：令和2年7月28日（火）14：00～16：00

場 所：文部科学省5F5会議室

議 題：

1. 今後の博物館の在り方、今後の博物館振興方策の方向性について
2. 令和3年度概算要求に向けた博物館振興策のあり方について
3. その他

資 料：

資料1 博物館振興方策の検討に関する論点（文化庁提出資料）

資料2 半田委員提出資料

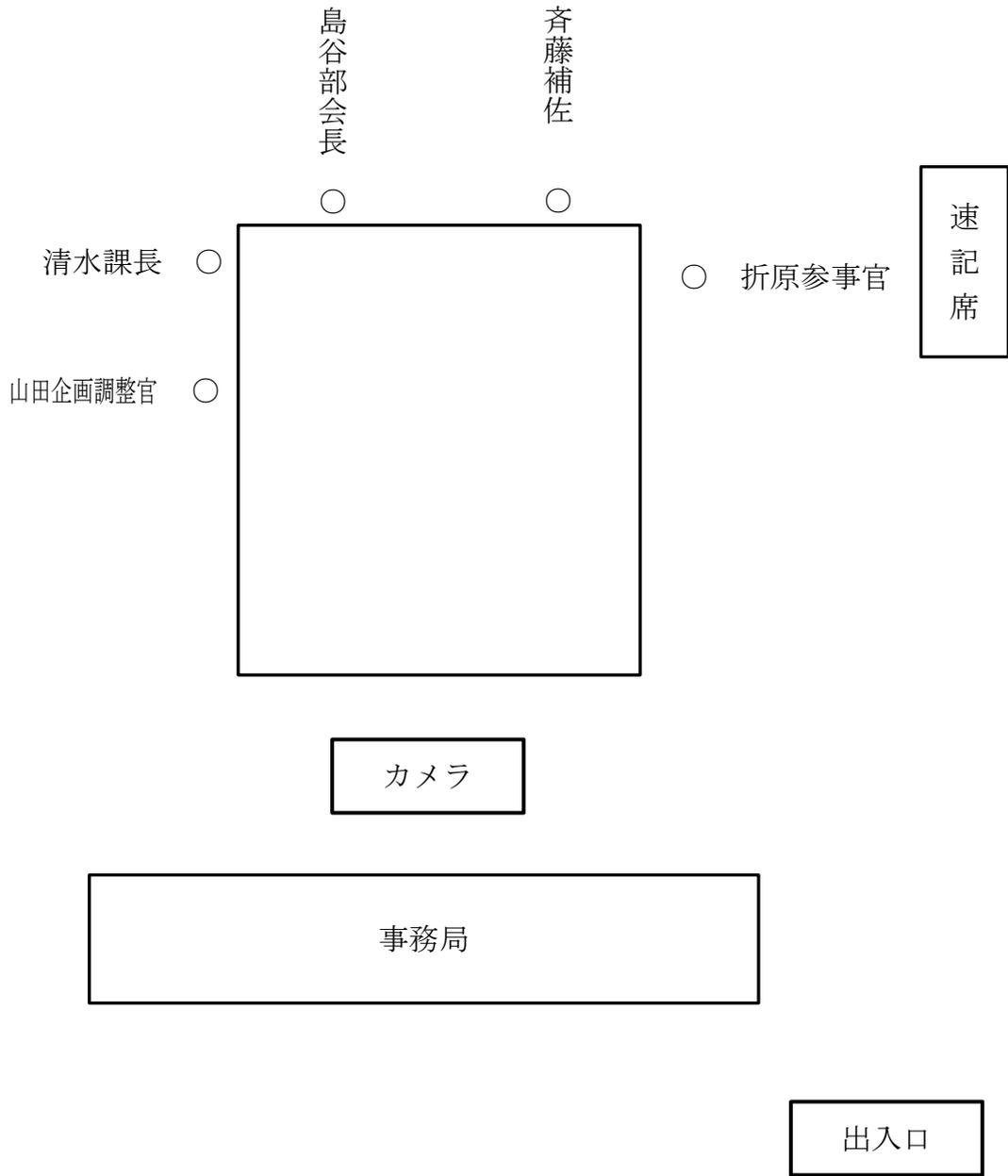
資料3 逢坂委員提出資料

資料4 高田委員提出資料

資料5 文化庁提出資料

文化審議会第2期博物館部会（第2回） 座席表

日時 令和2年7月28日（火）
14:00～16:00
場所 文部科学省東館5階 5F5会議室



【オンライン参加委員】

浦島委員、逢坂委員、太下委員、可児氏（伊藤委員代理）、川端委員、小林委員、佐々木委員、高田委員、浜田委員、半田委員、古田委員、宮崎委員

1. 今後の博物館の在り方、今後の博物館振興方策の方向性

【論点1】 博物館における展示の方向性

新型コロナウイルスとの共生時代（ポストコロナ時代）において、博物館における展示の在り方をどのように考えるか。

- ・ 館内展示（リアル）のみならず、オンライン等を活用した展示（バーチャル）の活用
 - ①新たな鑑賞機会の提供、②緊急事態対応、③地域教育・学校教育への活用、
 - ④収益力強化への寄与、⑤国際交流への寄与、⑥学芸員実習等への活用 等も考えられるか。
 - ・ 新型コロナウイルスの感染のみならず、不測の事態を備えた展示の多様化の促進
- ※オンライン配信等のバーチャル展示について、現時点での良好事例を共有し周知することが有効

【論点2】 博物館の収益構造の強化方策

多様な博物館活動を実現するために、ブロックバスターのみに依存しない、多様な収益構造を構築することが必要ではないか。

- ・ 新たな収益形態を確保するための取組の推進
 - 例：企業との連携、富裕層の取り込み
 - ※コロナ禍の影響を受けたインバウンド需要の急激な減少を受け、国内需要の掘り起こしにも目を向け、あらゆる来館者層を取り込む工夫が必要ではないか。
- ・ 寄附等の増加を図るための取組の推進
 - 例：ガバメント・クラウドファンディング等の活用、周知広報の強化 等
 - ※館独自の返礼、広報・周知方法を工夫すべきではないか

【論点3】 教育資源としての博物館の活用

ポストコロナ時代における教育へのICT活用の機運の高まりをとらえ、博物館が実施するオンライン展示等をより一層教育資源や地域連携のツールとして活用していくことが求められるのではないか。

新型コロナウイルス感染拡大と博物館

現場の感染対策・新たな事業への取組と今後への展望

令和2年7月28日

文化審議会博物館部会報告メモ

(日本博物館協会 半田昌之)

- 1 感染拡大への対応の概要
- 2 新たな情報発信への取組
- 3 開館再開に際しての感染防止対策の概要
- 4 「NEW NORMAL = 新たな日常」の下での博物館を考える
* 経営・運営・利用者
- 5 博物館の現状と今後の課題

1 感染拡大への対応の概要

* 文化庁発出情報と博物館の状況 (◎：現場の状況、協会の対応)

- ・ 1月24日：感染症予防に関する注意喚起
- ・ 2月12日：最新情報更新；イベント等における留意点
 - ◎全国規模の会議・イベントの中止・延期が増加
- ・ 2月26日：文化イベント開催について（自粛要請）
 - ◎国立博物館等の臨時休館、イベント等の中止・延期等が拡大
 - ・ 日博協HPに「博物館の休館情報」掲載
 - ◎日博協会員館の状況調査；推定で約4割が臨時休館
 - ◎休館中のオンライン情報発信への取組が始まる
 - ◎博物館の休館・経済損失等状況について与党等へ説明
- ・ 3月20日：文化イベント開催について（対策、自粛強化要請）
- ・ **4月8日：4月7日～5月6日7都府県に緊急事態宣言**
 - 補正予算に基づく緊急経済対策（文化芸術関係）
- ・ 4月13日：事業所の出勤者7割削減要請
- ・ 4月14日：学芸員養成に係る博物館実習実施の留意事項
- ・ **4月16日：緊急事態宣言を全国に拡大（～5月6日）**

◎日博協会館の状況調査；推定で約9割が臨時休館

◎休館中のオンライン情報発信への取組拡大

・ 4月26日：美術館博物館等に対する作品消毒の窓口案内

・ **5月4日：緊急事態宣言延長（～5月31日）**

◎博物館における感染拡大予防ガイドライン（5月14日）

・ **5月14日：緊急事態宣言一部解除**

◎解除対象地域から休館中の博物館の再開が始まる

・ **5月25日：緊急事態宣言解除**

◎休館中の博物館の再開が本格化

文化施設の感染対策事業補助金応募開始

◎博物館関係は日博協が運営受託（～6月19日）約700件

* 感染対策、特別清掃、空調改修（国公立）、時間予約制導入

採択件数：647 / 金額：約7億5千万円

現在、第二次補正等による文化芸術への各種支援が継続中

・ 7月15日：業種別ガイドラインに即した感染防止策の徹底について

・ 7月17日：業種別ガイドラインの改訂について（業態に応じた見直し）

・ **7月22日：首都圏はじめ感染者増加傾向、東京都知事、連休の外出自粛要請**

〈感染防止 ⇄ 経済活動 4-全国的に感染拡大〉

2 新たな情報発信への取組

* コロナ禍の下で再確認できた(すべき)博物館の社会的役割と機能

◎ 博物館は非日常を強いられる人々に心の栄養を届け、豊かな生活を

送るための社会基盤としての役割を担っている

◎ 博物館は社会環境によって、施設を開けない状況であっても、

そこに蓄積された多様な文化資源と研究情報を活用することで、

社会的役割を果たすことができる機能を有している

◎ 博物館の資料と情報は社会の公共財として蓄積されている



* ネット環境を活用した「来館できない利用者」への情報発信

◎ コレクション＝所蔵資料の情報／調査研究情報が素材

★ 常設展示室のバーチャルツアー

★ 学芸員等によるギャラリートーク

★ 休校中の生徒・児童用の学校教育関連プログラム

★ バックヤードツアー など

* 多様な博物館の情報発信に関する連携・支援・情報共有体制

◎個々の博物館による独自の情報発信

★ホームページ、SNS等による通信環境、職員体制の整備

◎地域の博物館組織によるプラットフォームの形成

★集まり情報を集約、個別の施設の負担軽減・発信力の強化

・北海道博物館協会「おうちミュージアム」(205館)など

◎SNS等による博物館関係者の情報共有ネットワークの形成

★他の施設の状況把握、課題・対策の共有、協議・知恵出しの「場」

・「ミュージアムの新型コロナウイルス対応情報共有」(Fb 592人)など

◎博物館・美術関連業界からの情報発信、博物館の魅力拡大効果も

★「インターネット・ミュージアム」「美術手帳」など

★「ニコニコチャンネル」など業界関係

★ゲーム「あつまれどうぶつの森」などへの波及効果

〈行かないと楽しめない⇒家でも気軽に楽しめる⇒行ってみたい〉

●東京国立博物館

東京国立博物館

展示 催し物 コレクション 教育 歴史・研究 本館案内 東郷について

お知らせ

6月2日(火)より再開いたします

新型コロナウイルス感染防止のため2月27日(木)から臨時休館としておりましたが、首都圏を対象とした国の緊急事態宣言が解除されたことから、6月2日(火)より一部の展示施設を開館いたします。なお、入館は事前予約制(日時指定券)となります。詳細をご確認の上、ご来館ください。

特別展

特別展「きもの KIMONO」

平成館 特別展示室 2020年6月30日(火)～2020年8月23日(日)

日本の美意識を色と模様を表した「きもの」。本展では800年以上を生き抜き、今なお新たなファッション・シーンを繰り広げる「きもの」を、現代を生きる日本文化の象徴として展覧し、その過去・現在・未来を見つめる機会とします。

オンラインギャラリーツアー

オンラインギャラリーツアー

2020年3月3日(火)

トーハクの総合文化施設を動画で紹介する「オンラインギャラリーツアー」

作品への思い溢れる研究員のトーク。ぜひおうちでトーハクをお楽しみください。

公式キャラクター

トーハク広報室 @TNM_PR

今日は#スポーツの日。運動はいかに優雅に脚を振り上げるかを磨きあげたため、優雅で美しい色彩の衣装を着用しました。革の靴を履く様子は近世以降から始まりました。

複製展 紅葉装文(まりしょうそくべにとおひしもん)・鞠乾(まりぐつ)

江戸時代・19世紀#東京国立博

まとめむ Twitterで表示

めり絵シート

2020年3月10日(火)

トーハクのコレクションにある作品や、キャラクター・トーハクくんとユリノキちゃんなどのオリジナルのめり絵です。

おうちで楽しむ博物館

2020年4月1日(水)

誌面でトーハクの展示をお楽しみください。バックナンバーもご覧になれます。

東京国立博物館ニュース

ICOM KYOTO 2019

●九州国立博物館

九州国立博物館

STAY HOME!

おうち de きゅ〜はく!

IE DE TANOSHINDE NE!

きゅ〜はくでは、展覧会やきゅ〜はく女子考古部、あじっばなどで、さまざまなワークショップをおこなってきました。「おうち de きゅ〜はく!」では、その中からおうちでできることをご紹介いたします。

チャレンジした人は、[ハッシュタグ #ouchi989](#) を付けてツイートしてください!

●北海道博物館 「おうちミュージアム」

さいたま市の博物館 @SaitamaMuseum - 3月13日

新型コロナウイルスが広まって、学校やようちえん、ほいくえんがお休みになってしまいました。さいたま市立博物館もお休みです。そのかわりに、さいたま市立博物館「#おうちミュージアム」では子どもたちがおうちで楽しく学べるアイデアを伝えていきます。ぜひやってみよう! city.saitama.jp/004/005/004/00...

このスレッドを表示

おうちで たのしく まなべる

おうち ミュージアム

【ミュージアム関係者の皆さまへ】「おうちミュージアム」参加施設の

募集

2020.03.05 (木)

コロナウイルスの影響で、全国の多くのミュージアム等施設が臨時休館となっている中、各施設が続々と休館中の取り組みを始めていらっしゃいます。

そこで、家で楽しみながら学べるコンテンツを提供しているミュージアム同士で手を組み、個々の施設へ元々情報アクセスしている方々だけでなく、より広く届けられないかと考え、この度「おうちミュージアム」を企画しました。



ミュージアムの新型コロナウイルス対応情報共有

+ 招待する



ミュージアムの新型コロナウイルス 対応情報共有

公開グループ・メンバー592人



+ 招待する

情報 ディスカッション ルーム メンバー イベント メディア ファイル

もっと見る

**COVID-19*
Museums Online
cafe #5**

7月12日(日)実施
予定だった内容です!

ライトニングトーク
「台湾の博物館はCovid-19にどのような対応をしたか」
ダイアログワークショップ
「第2波に備えよう!」

26 July 2020 20:00-22:00

今日 20:00
COVID-19*Museums Online cafe #5 「台湾の博物館はCovid-19にどのような対応を...」
 中尾 智行さん、中尾 智行さん、中尾 智行さん、中尾 智行さん

-9 興味あり

👁 検索可能
誰でもこのグループを検索できます。

👤 一般グループ

投稿の人気のトピック

国内休館情報(376件) 国内再開情報(100件)

休館中の動き(98件) 海外情報(68件)

ウィルス対策(43件) 提案・相談(25件)

その他(22件) ミュージアムとCov...

管理人から(13件) 働き方(8件)

Covid-19関連調査... 第2波再休館(4件)

コロナ関連記事論文... 中止延期事業関連(1...

表示数を減らす ^

近日予定のイベント

今日 20:00
COVID-19*Museums Online cafe #5 「台湾の博物館は...」
 中尾 智行さん、他友達2人

TOP > 特集 > 新型コロナウイルス特集

特集

新型コロナウイルス特集



新型コロナウイルス特集

1. ミュージアムの休館・開館情報 (毎日更新)

1. ミュージアムの休館・開館情報 (毎日更新)
2. 観覧予約・申し込みの状況
3. 休館が完了した美術館・博物館
4. 再開したミュージアム・美術館

新型コロナウイルス感染予防のため、休館になっているミュージアムをまとめました。

休館期間は、随時変更される可能性があります。

美食モニター募集

モニター試験に参加しませんか

NICONICO ART MUSEUM ニコニコ美術館

NOW 近日放送・放送中

最新企画展「角川美術館ミュージアムの歴史を語る展『ニコニコ美術館』」
 2020年7月24日(金)～9月20日(日) 10時～18時 入場料 大人1,000円 小学生500円

京都国立博物館「特別展 聖徳太子と西国二十二年の旅程と空室」を高める (出展 橋本静馬) 【ニコニコ美術館】
 2020年7月24日(金)～9月20日(日) 10時～18時 入場料 大人1,000円 小学生500円

京都国立博物館「特別展 聖徳太子と西国二十二年の旅程と空室」を高める (出展 橋本静馬) 【ニコニコ美術館】
 2020年7月24日(金)～9月20日(日) 10時～18時 入場料 大人1,000円 小学生500円

TWEET #ニコ美

ニコ美を含むサイト



ウェブ版美術手帖

ページ・いいね! 7.3万件・芸術・人文系サイト

2月27日 · 🌐 · 【休館情報をアップデートしました】
<https://bijutsutecho.com/magazine/insight/21414>

bijutsutecho.com

まとめ：新型コロナウイルスによる全国の美術館・博物館休館情報



👍👎👏 31

シェア10件



ウェブ版美術手帖

ページ・いいね! 7.3万件・芸術・人文系サイト

3月20日 · 🌐 · 【情報を随時更新中】 今現在も開館している美術館・博物館の一覧です。随時更新中。

bijutsutecho.com

まとめ：開館している主要美術館・博物館情報



👍❤️ 74

コメント2件



#museumathome

5,066 people are talking about this

Muhammad Akhter Javed, ICOM-PAKISTAN

7月7日 16:07



Shirin Melikova

7月7日 16:06

Öziz dostlar!

Sağlıklığımız için karantin dayam edirik! Evde keçirdiyiniz günleri rangarang etmek istardinizmi? Ela ise bütün yaş tabaqalarından olan izlayicilar... もっと見る

👍👎👏

🔗

3 開館再開に際しての感染防止対策の概要

* 利用者と職員を感染症から守る

◎ 不特定多数の来館者の利用を前提とする博物館は、**感染リスクの高い状況を作り出す可能性を持つ施設**であるという認識。

◎ 多くの業種に**共通する基本**をしっかりと抑える。

・ **三密防止**（密閉、密集、密接）

◎ 博物館に特有な留意点を整理する（業種別ガイドライン）

・ **密閉**；窓の少ない展示室、展示ケース、収蔵庫 など

・ **密集**；展示室内、講演会、プラネタリウム、受付 など

・ **密接**；展示解説、ワークショップ、ハンズオン など

・ 施設の規模、館種、展示室の広さ、入館者数 など

・ 感染リスクのある利用者・職員のチェック

・ 消毒の徹底、人と人の距離の確保、入管制限、会話の抑止 など

・ リスクの高い展示、催しの中止 など

・ 感染者が確認された際の対応 など

* 博物館における感染対策の留意点

◎人的感染予防と文化財保存への配慮

- ・ 露出展示資料等への消毒用薬剤の選択 など
- ・ 展示室・収蔵庫換気、**外気導入**の在り方 など

◎什器の特殊性

- ・ 展示ケース、低反射ガラス、飛散防止フィルム
- ・ 展示室の造作用素材
- ・ ハンズオン展示、タッチパネル等のメンテナンス

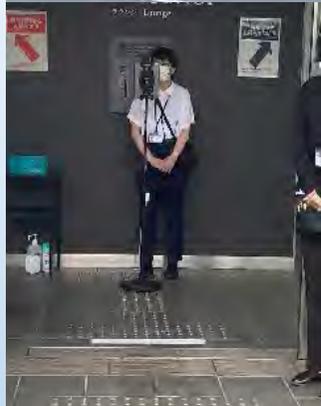
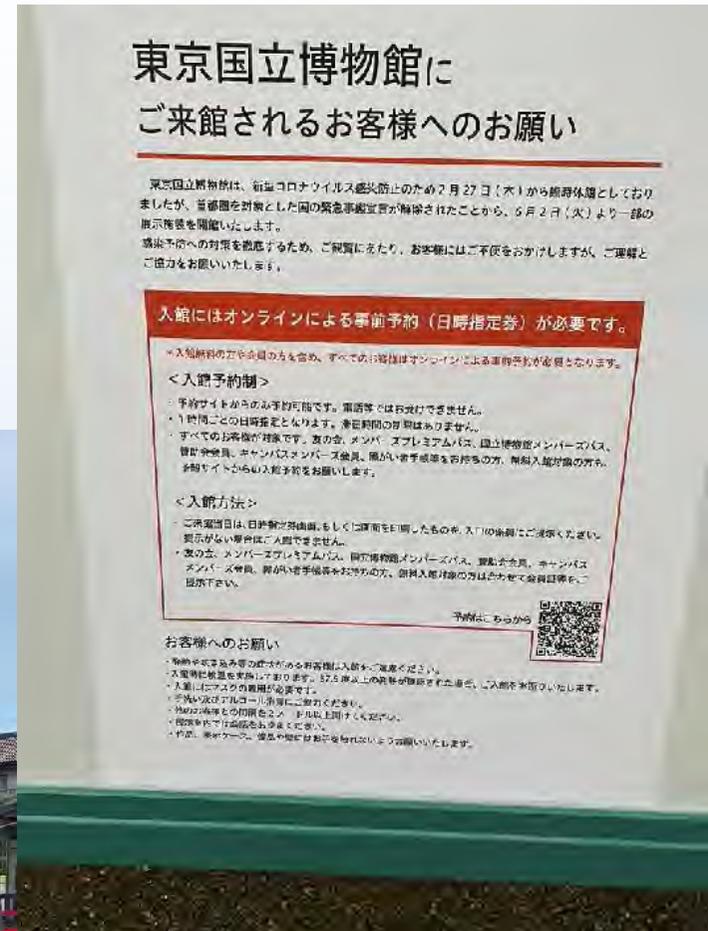
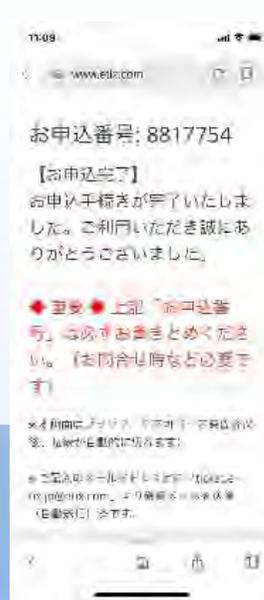
* 博物館の感染拡大予防ガイドラインの見直し、理解促進

◎現行ガイドラインは5月14日設定、5月25日改訂

- ・ 現状の感染状況、**博物館の運営状況**に応じた見直し。

◎他の業種別ガイドラインとの擦り合わせ

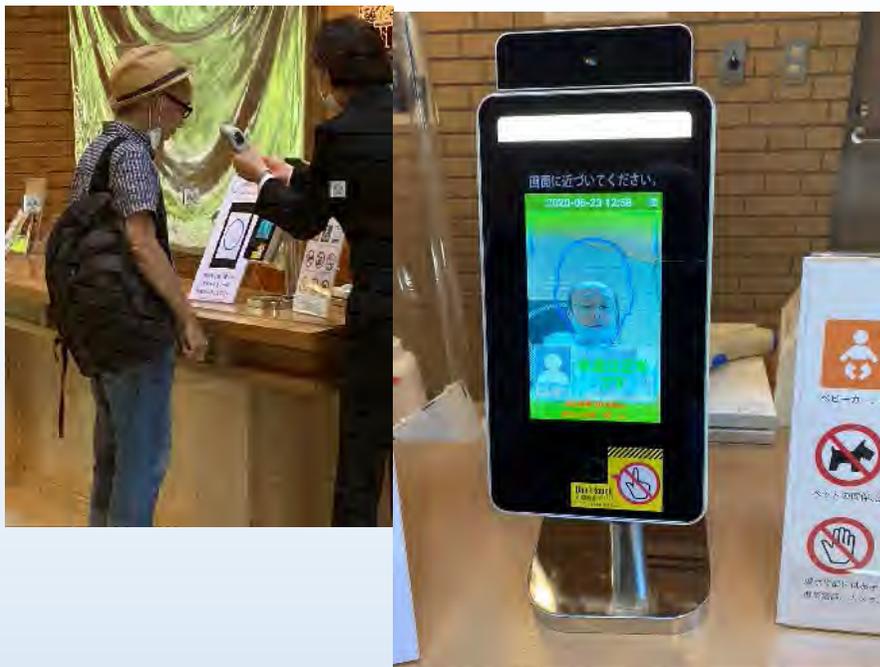
◎持続可能な**継続性のある運営を支える**ガイドラインの必要性



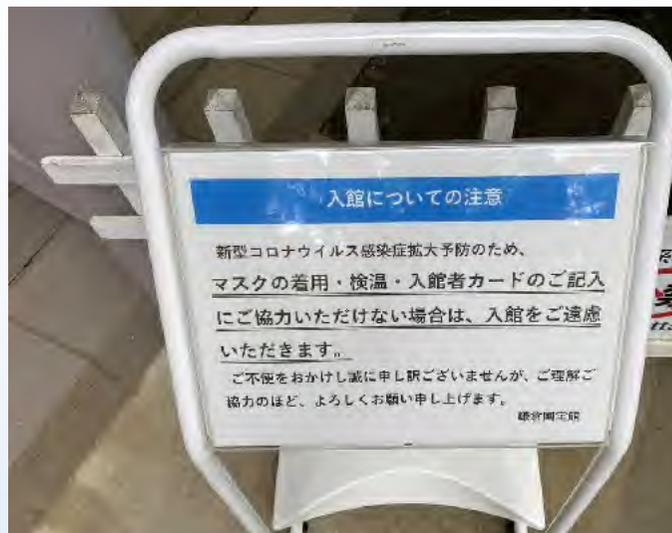
●国立科学博物館



●西宮市大谷記念美術館



●鎌倉国宝館



4 「NEW NORMAL = 新たな日常」の下での博物館を考える

* 経営

- ◎感染予防のための臨時休館、再開への予防対策、予約入館制、入館者数制限等の実施による博物館の**財政的損失**による経営リスク。
- ◎中小規模施設、NPOによる運営施設、入館料収入比率の高い**私立・個人経営博物館に打撃**。存続の危機を感じている施設も。

●人々に行動変容が求められる「新たな日常」の中で、博物館の基本的経営の在り方も大きな変化が求められる。

- ◎入館料収入、自主事業収入割合の比率が高い経営の見直し
- ◎ブロック・バスター展開催を収入の柱とする施設経営の見直し
- ◎指定管理者制度における**利用料金制度**の見直し
- ◎自己収入が基本機能の維持に投入されている経営リスクの見直し

★持続的な博物館経営を支える**財政基盤の確立**

* 運営

◎ 入館者数を評価指標とする事業展開の限界

◎ インバウンド中心の観光連携施策の停滞

◎ 博物館が立地する地域を中心とする事業展開への転換

- ・ 所蔵資料の価値の再認識
- ・ 基礎的調査研究、資料整理の推進
- ・ 所蔵資料情報のデジタル化の価値の再認識
- ・ 地域の歴史、文化のアーカイブ機能を地域の活性化に活かす運営

● 中長期的展望の下での 地方創生に資する「地域の文化情報拠点」
「地域文化の創出拠点」を目指す事業展開が求められる。

◎ 都市型の運営モデルから、地域特性を生かした独自運営モデルへ

◎ 地域の文化資源の保存・調査研究体制の整備と新たな活用体制の整備

★ 地域に根差し、地域を豊かにする博物館運営の在り方の確立

* 利用者

◎ コロナ禍の下で博物館の新たな利用法が広がる

◎ 自宅等、博物館を訪れなくても楽しめる・学べる多様なプログラム

◎ 期せずして実現した利用者フレンドリーな展示鑑賞環境

・ 日時予約制の今後の展開、メリット・デメリットの検証

・ オンライン事業と来館事業の使い分けの促進

「情報を活用する楽しみ ⇄ 実物を見る・実際の施設を訪れる感動」

・ 多様な利用者に対応する「社会包摂」の実現

● 博物館から利用者への「プロダクトアウト」的情報発信形態から、利用者を主体とする「マーケットイン」を基本とする双方向的事業展開への変換が求められる。

◎ 「モノを見せる」機能中心から利用者とともに「モノゴト」を考える
博物館と利用者の関係性の構築

★ 地域や人類の未来の在り方を利用者と共に創る環境の整備

5 博物館の現状と今後への展望

* 4 「NEW NORMAL = 新たな日常」の下での博物館で示した、経営、運営、利用者の課題は、合意形成できれば**実現可能か？**

◎令和元年度に実施した**博物館総合調査の結果**から一部を紹介

(調査結果の報告書は8月中に刊行、発表予定)

★有効回答博物館数：2,314館（55.4%）（調査票送付：4,178館）

◎日本の博物館の典型的な姿（中央値、最頻値、平均値から）

- ・常勤職員数：3人（内、学芸員資格保有者数：1名）
- ・年間入館者数 最頻値：5,000人未満（中央値：14,464人）
- ・年間総収入額 中央値：1,360万円（平均値：9,026万円）
- ・年間総支出額 中央値：2,965万円（平均値：1億560万円）

◎資料**購入のための予算が無い**博物館：**60.5%**（100万円未満：22.5%）

◎収蔵庫に**資料が満杯か溢れている**博物館：**73.2%**

- ◎ 「情報のデジタル化の遅れ」を感じている博物館：73.9%
- ◎ 「調査研究が進んでいない」と感じている博物館：72.3%
- ◎ 「必要な資料整理が進まない」と感じている博物館：70.9%
- ◎ 「職員が不足」と感じている博物館：57.2%

- ◎最も多くの博物館が感じる課題は「外国人向け対応が不足」：84.5%
 - ・ 今回の総合調査：コロナ禍が起こる直前の日本の博物館の運営実態を示すデータとして意味がある。

★ 「新たな日常」における博物館の在り方を考えるための検討課題

- ◎ 博物館の存在意義・社会的役割についての共通認識の醸成
- ◎ 社会基盤・公共財である博物館の位置づけを規定する制度の充実
- ◎ コレクションの充実、保管、調査研究等基本機能の充実
- ◎ 専門人材の育成、デジタル化等への政策的支援
- ◎ 地域との連携、足元のコレクションの見直し・活用促進策の検討 など

★本部会での検討テーマ

◎感染症予防対策支援の在り方について（**振返りと今後への備え**）

◎**ウィズコロナ、ポストコロナ**時代の博物館の在り方

◎新たな博物館の在り方に即した**博物館への支援政策**の在り方

◎**SDG'sと博物館**の役割

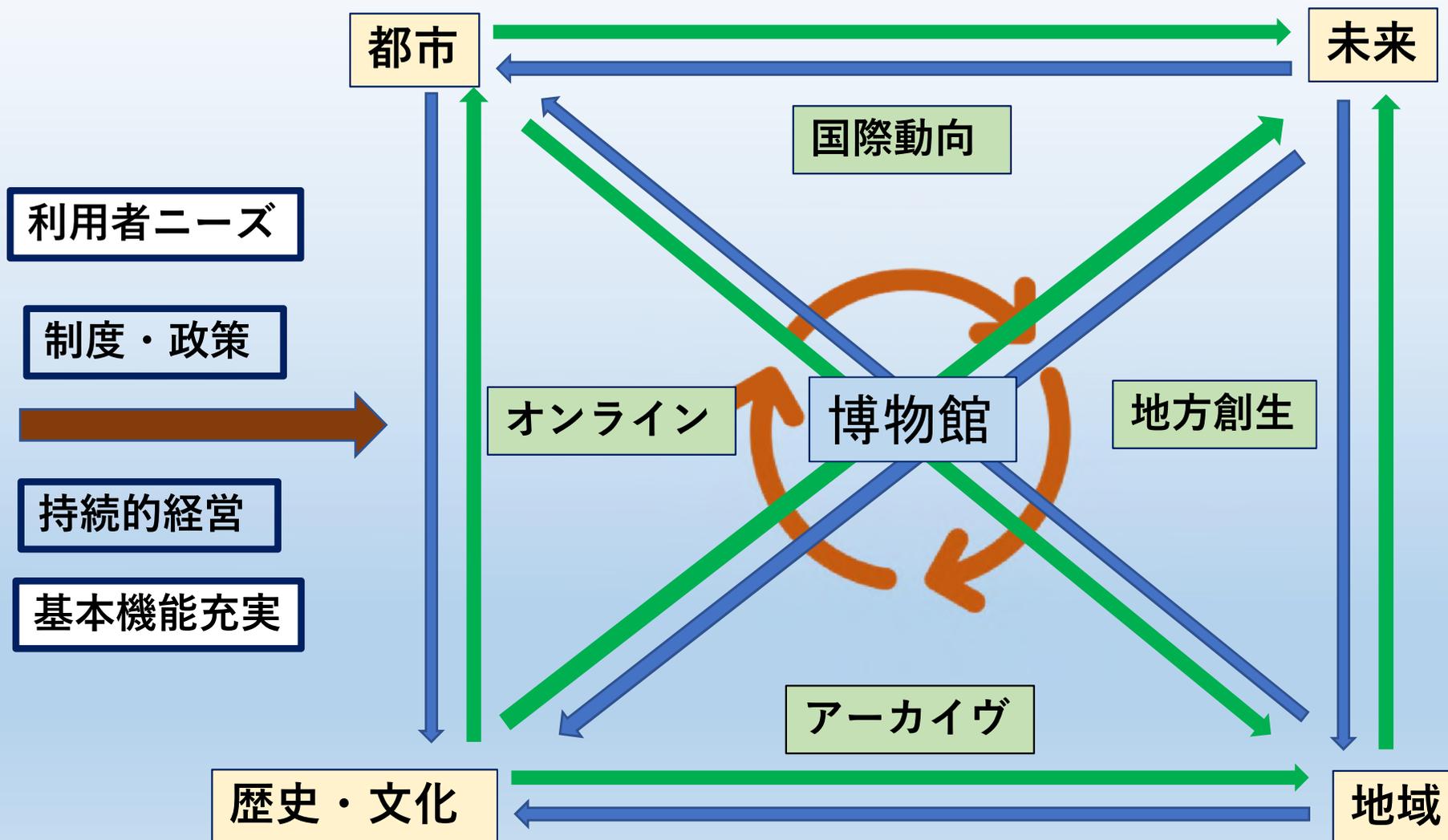
◎国際博物館の日のテーマ、キーワード等への対応

「**平等を実現する場**としての博物館」 「**社会包摂**」 など

- * 「**グローバリズムに基づく人の自由な移動と市場経済**」が優先される枠組みの中から、博物館が、地域の歴史・文化を基本とするローカリズムとの調和の下に、保管する文化資源と、調査研究によって生み出される文化的価値を未来に受け継ぎ、利用者とともに未来を共創する。博物館がこうした機能を果たし、持続可能な事業展開を行うために必要な調査研究・政策立案が急がれる。

新しい日常の下での
博物館のイメージ

いかなる社会状況の下でも
博物館へのアクセスが確保されることを人々が望み
そのアクセスを社会全体でサポートできる環境づくり



2020/07/26 逢坂

文化庁 博物館部会委員会 資料 20200728

■美術館とは何か？

- ① 美術館は、作品を収集・保存し、調査・研究し、企画・展示や教育・普及を行う**研究機関**との認識はなかなか伝わらない。
- ② 1970年代以降、地方自治体が公立の美術館を開館 → それまで公民館が果たしてきた市民の作品展示を引き継ぐかたちで、貸しギャラリーを併設する館が増えた。 → **貸しギャラリー、展示会場、イベント会場**
- ③ 美術館の主たる活動として**企画展のみ**が認知され、21世紀は**大量動員展**（ブロックバスター展＝巨額が必要でハイリスク、ハイリターン）がより注目を集める。
- ④ 新聞社、テレビ局など、民間企業が展覧会制作に深く関与し「稼ぐ」必然性あり

■新型コロナウイルスの世界的蔓延による、展覧会環境の変化

- ① **三密対策に伴う制限**
 - ・ 予約制導入、入場者数制限、ギャラリートークなどの**密な事業の自粛**
 - ・ 予約制によりひと手間かかる、高齢者の出控え、人数制限により来場者数がのびない
 - ・ 東京移動に対する心理的負荷 → 団体公募展の審査不可
- ② **海外からの作品借用の停滞**
 - ・ レジストラー、キュレーターの渡航制限に加え、作品の借用は今後より難しくなる
- ③ **身の丈の展覧会**
 - ・ 国内のコレクションを活かした展覧会や、大量動員展とは異なる学芸員の研究成果による展覧会の工夫
- ④ **デジタルの活用**
 - ・ 実際の鑑賞体験を補足する啓蒙活動の重視
 - ・ 美術館の社会における存在意義を、丁寧に様々な角度から伝える可能性の拡大

■展覧会収入の減少

- ・ 収入が減り、支出が増えるため**収支バランスをとることが難しくなる**
- ① 検温、飛沫防止、動線の分けなどの機器設置
 - ② 安全管理上の増員確保
 - ③ ギャラリーへの来場者数を制限
 - ④ 予約制導入による発券システムの変更
 - ⑤ 貸しギャラリーのキャンセル対応
 - ⑥ 展覧会中止や会期変更、事業中止によるチケット払い戻し

- ⑦ 作品の返却時期変更による倉庫の確保
- ⑧ 教育事業の中止
- ⑨ オンラインによる画像配信などの新たな事業 → 予算+人材が必要

■新聞社との共催展の変化

- ① 新聞社の減収、リスク回避、展覧会チケットの値上げ要請
- ② 新聞社は今後、展覧会事業を継続できるか？
 - ・巨額の保険料や作品借用費等を払うブロックバスター展開催の難しさ
 - ・国の美術館では事業費全額を新聞社が出しているケースがほとんど。

■新自由主義の限界

美術館制度、展覧会制度の基本にたちかえる

- ・展覧会事業実施においては、いままでは民間への依存度が極めて高い
- ・決して民間委託や収益重視だけでは運営できないのが公益事業=美術館活動
- ・民間とどのような協力、支援体制を維持できるか → **税制改革も必要**

■美術館を継続するための今後の展開

100年後を見据えた美術館

- ・多様な専門家を登用した総合力を発揮できるような**美術館制度改革**
 - **雇用の創出、AI時代の人間性を回復する場**
- ・現在の文化政策=運営交付金=毎年1%減 100年をまたず国立美術館消滅
- ・美術館は過去、現在、未来をつなぐ視点にもとづき運営

令和2年度 文化庁博物館部会（第2回）
ポストコロナの時代における博物館振興の在り方



博物館における地域教育連携とオンライン(ICT)活用

高田 浩二 | 海と博物館研究所

地域の全てを博物館の教育資源に

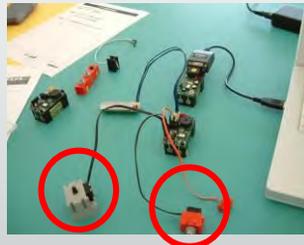
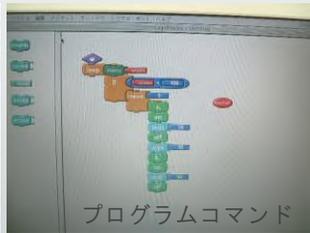
48基準が撤廃(H23)、博物館は施設規模や資料数で評価しない時代
博物館が館内に所蔵、展示している資料は有限、教育は無限

1. 小規模館ほど地域密着の教育普及や展示で地域からの信頼
アフターコロナの時代、遠来の来訪者より地域のリピーター獲得
2. 誰もが携帯端末を持つBYOD時代、ICTを活用した博学連携
学校教育は情報化の波が顕著。学校とオンラインでつながろう
※学校は「地域のマス(大量)なりピート客」。

誰もが携帯端末を持つBYOD時代、ICTを活用した博学連携
 学校教育は情報化の波が顕著。学校とオンラインでつながろう
 ※学校は「地域のマス（大量）なりピート客」
 ※地域の学校教育と連携。情報化する学校に博物館も追随。

プログラミング教育と博物館

平成12（2000）年から
 既に国内で試験導入
 レゴブロックの「クリケット」



平成15（2003）年
 水族館で
 プログラミング教室
 海洋生物の泳ぎを観察
 どこをどう動かし
 どう泳ぐか記録
 プログラミングで再現



学校の情報化は
 博物館のチャンス



高等学校もターゲットに 多種の博物館が連携

平成16～17（2004～2005）年度 文部科学省社会教育活性化21世紀プラン

博物館の建築とデザインから学ぶ社会教育

マリンワールド海の中道、九州国立博物館、九州産業大学美術館の3館連携

博多工業高等学校、九州高等学校で実践、二ヶ年を通したプログラム

- 工業高校: 建築科 **地域のアイデンティティ「那珂川」**
河川博物館の設計、模型制作
- 普通高校: デザイン科 水族館の展示デザイン提案
- 博物館の建築に関する**ウェブデータベース教材**の制作
- 地域で巡回展～**実現に向け地域で署名運動まで**



河川水族館 の設計



1年目生徒：模型制作
2年目生徒：実施設計

周到的な地域調査
館内に
老人ホーム
図書館
医療施設まで提案



生徒が一人一台の情報端末で学習する時代が来る

平成20(2008)年度

海を伝えるキッズボランティア



i-Podの画面に生徒が担当する
生物の解説コンテンツを自己作成
画面を操作しコミュニケーション



水族館での活動前に、小学校で地域住民を巻き込んだ学習活動

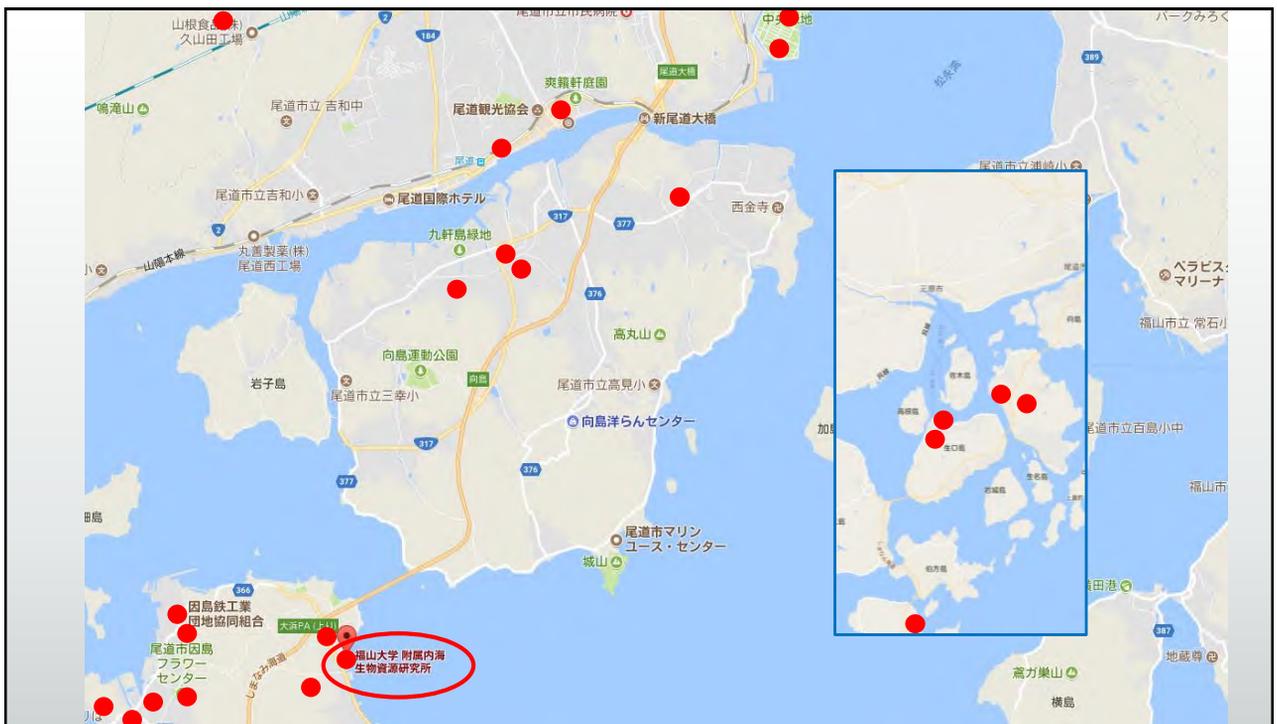


小規模館ほど地域密着の教育普及や展示で地域からの信頼
アフターコロナの時代、遠来の来訪者より地域のリピーター獲得

平成27(2015)年～平成30年(2018) 福山大学に着任

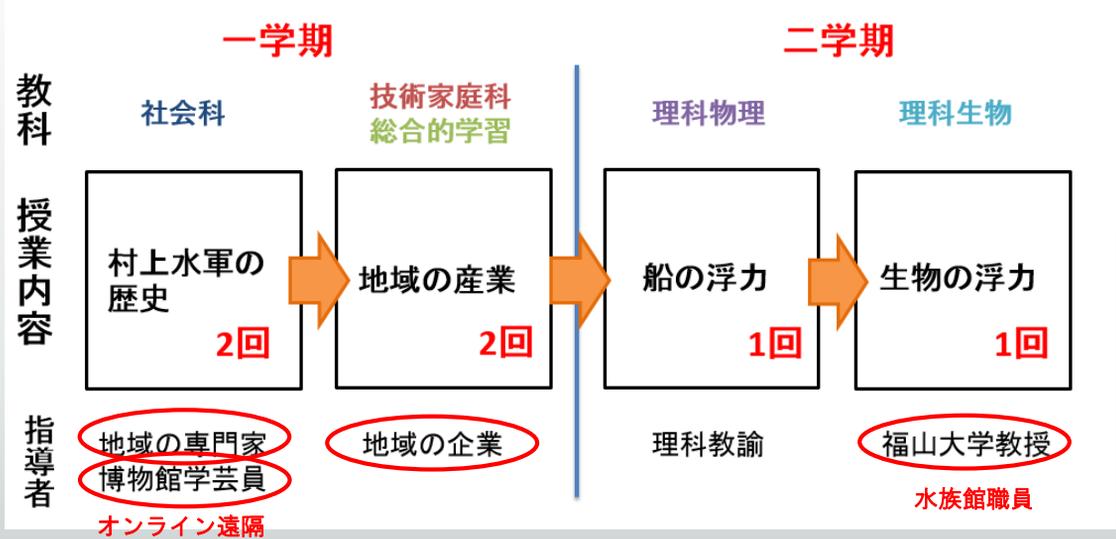
地域にあるもの全てを大学水族館の教育資源に
福山大学内海生物資源研究所(マリバイオセンター水族館)の環境、施設

・古くて小さい ・予算もない ・離島、へき地、人口少ない



平成28（2016）年

中学校における異業種が連携した教科横断型学習



地域の歴史研究家の出張講話



村上水軍博物館学芸員の遠隔授業



校区の鉄工所で船の部品製造見学



校区の造船所で船の建造見学



中学校の理科で海洋生物の浮力講話



オウムガイを切断

平成28～30（2016～2018）年度

社会福祉施設と連携した発達障がい児の生活の質の向上



特別支援学校と連携した水族館学習 3か年連続



海の生物と体育祭

クラゲの観察と工作



教室水族館を作ろう

水族館で給餌

海の生物になって鬼ごっこ



尾道市立大学美術館サテライトスタジオでの作品展示と解説活動

平成30（2010）年度

図書館と幼稚園、水族館が連携した多様性教育の開発と実践



詩の朗読と合唱 私と小鳥と鈴と



海の絵本読み



海の生物塗り絵



図書館で絵本や図鑑を見る



詩の朗読 草の名



海の生物を自由に描く



描いた図画の発表会



生物の名前や特徴を紹介する



クイズゲーム



園児の図画を図鑑に印刷製本



図書館に寄贈



幼稚園に寄贈

平成30（2018）年度

水族館・植物園・小学校と学ぶ地域の自然と仕事（タブレット活用）



水族館と島の漁業（重井小学校5年生）



植物園と島の農業（重井小学校5年生）



地域の漁師さんからの指導・協力



除虫菊畑やハウス栽培農家さんからの指導・協力



令和元（2009）年度

金子みすゞの詩を教材にした 地域と連携した学習プログラムの実践

下関市立しものせき水族館

海と博物館研究所

さざえのお家 金子みすゞ

海の夜あけだ、砂のみち、
トントン、「ちちやでございます、
海豚のお乳をおきましょか。」

海のまひるだ、海松並木
(みるなみき)、
「号外、号外」、チンチリチン、
「鯨が鱒網にかけられた。」

海の夜ふけだ、岩のかけ、
トントン、「急ぎぢや、はよ開けた、
電報、電報、」ひつそりこ。

お風邪か、お留守か、お寝坊か、
さざえのお家は戸があかぬ。
明けても、暮れても、ひつそりこ。



しものせき水族館でイワシの観察



唐戸市場で貝殻観察



唐戸市場でサザエ観察



私と小鳥と鈴と 金子みすゞ

私が両手を広げても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。
私からだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんの唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。



みすゞ詩の小径

唐戸市場

SHINAGAWA
KAICYOKAN



福田正義記念館訪問



粹書房訪問



山口銀行史料館で作品制作



しものせき水族館で作品展示会



作品を南部郵便局から発送

水族館学習、地域学習のために協力を得た相手

幼稚園、小学校、特別支援校、中学校、
 高校、大学、老人会、社会福祉施設、
 歴史博物館、美術館、歴史編纂室、個人記念館
 植物園、水族館、子ども科学館、書店、銀行
 鉄工所、造船所、水産会社、鮮魚店、飲食店、
 IT企業、農家、漁師、教科書会社、郵便局
 図書館、公民館、スーパーマーケット、写真館

提言

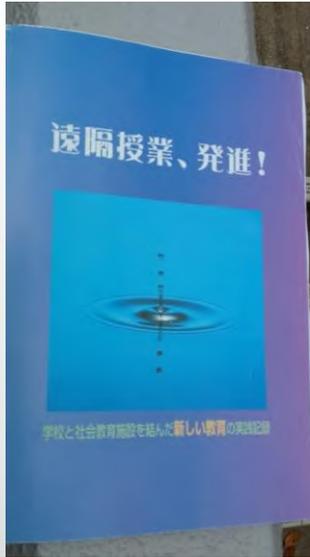
- 博物館でその**専門領域を学ぶのは当たり前**。
- 博物館は**地域の多様な教育資源を活用**しよう。
- 博物館は地域の学びの「**御用聞き**」になろう。
- 博物館が**学びのコミュニティ**になる。
- ヒトは学ぶ動物、博物館がそれを担保しよう。
- 博物館は**教育で地域の信頼**を受け地域の宝になる。
- **観光だけで博物館は生き残れない時代**。

課題

- **地域には教育資源があふれている**という意識や視点。
- **地域にどんな課題**があり、何を望んでいるのかを知る。
- **コミュニケーション力**、人脈の開拓力、地域を巻き込む力。
- 何でも博物館と関連付ける**柔軟な発想と既成概念の払拭**。
- それらを教材化、プログラム化、**実現していく力**。
- 黙って動かなければ**誰もやってくれない**。
- **地域学習のコーディネータ**になるスキルを磨く。

多様な博物館教育を！

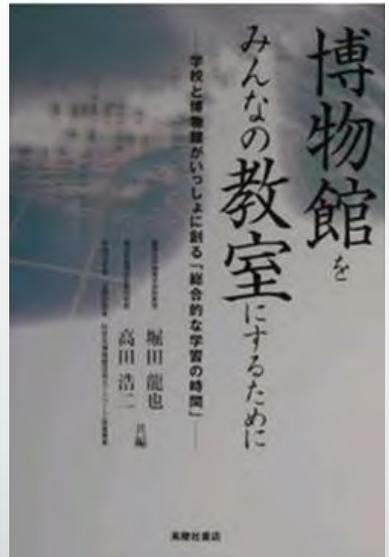
オンライン学習(遠隔授業)はすでに20年前から



平成11 (1999) 年



平成13 (2001) 年



平成14 (2002) 年

ISDN回線 マリンワールド海の中道での遠隔授業 平成10 (1998) 年～



人口過少地域におけるICTを活用した社会教育実証研究について

平成27年度予算 0.4億円

人口過少地域の社会教育の維持向上と地域コミュニティの活性化を図るため、遠隔地間における社会教育関係職員の研修や遠隔講座の実施を通じて、地域の課題を解決するための社会教育プログラムの構築に関する実証研究を実施。(全国3地域)

都道府県・政令市教育委員会

生涯学習センター・図書館・博物館などの社会教育資源（人的・物的（資料等））
を活用し、過疎地における社会教育関係者への研修や地域住民への遠隔講座を実施

過疎地域（3カ所）

研修実施



社会教育関係者

研修例

- 学習プログラム編成方法（遠隔講座、実際の講座を含む）
- 地域課題の把握・分析方法
- 遠隔講座の実施方法
- 多様な主体と連携・協働した事業の実施方法

地域課題や学習ニーズの把握

地域課題の解決を図る講座の実施（防災、環境問題等）



地域住民

講座例

- 地域課題への対応（防災・防犯等、環境問題、少子高齢化等）
- 健康福祉
- 教育の向上（歴史、文学等）

講義実施

遠隔講座の実施



双方向の遠隔研修及び遠隔講座を効果的に活用した社会教育プログラムの体系化

空白の
6年・・・
消えた
遠隔？

福岡地域社会教育活用連携協議会 平成27～30（2015～2017）年



自然ネットワーク教室 / 自然ネットワーク教室とは

2015年より、地域の活性化を旨とし、ICTを活用したプロジェクト「自然ネットワーク教室」がはじまりました。この自然ネットワーク教室を運営するのは、「福岡地域社会教育ICT活用連携協議会」です。それぞれの地域にある自然の魅力を発見するため、お互い手を握

望などをヒアリングし、そこからどのような講座ができるのかを検討しました。協議会には、自然科学のさまざまな専門家がいるので、どの機関が担当するのが良いのか、遠隔講座だけでなく、人が出向いて行う研修やフィールド観察なども組み合わせて、子ども

協議会構成機関

機関

- 海の中国海洋生物科学館（アフリカ・インド洋）
- 海の中国海洋公園 動物の森
- 北九州市自然史・歴史博物館（西戸地区）

今津の魅力再発見！

～校区のあちこちから生中継～

今津地区には豊かな自然環境、重要な史跡、伝統的な文化があります。今回は、様々な地点をインターネットによる生中継でつなぎ、今津の素晴らしさを紹介します。

この機会をきっかけに今津地区の素晴らしさを再認識するとともに、わが町の素晴らしさを発信し、住みやすい今津を作りませんか？

日時：平成28年11月19日(土)
13:00～14:00

会場：今津公民館

中継予定場所

- ：元寇防壁・長浜海岸
- ：毘沙門山山頂
- ：誓願寺
- ：今津干潟
- ：今津運動公園
- ：北九州市立いのちのたび博物館
- ：海の中道海浜公園動物の森

多地点接続可能

平成28（2016）年 携帯電話 LTE回線+Wi-Fi 中学校における異業種が連携した教科横断型学習



村上水軍博物館



広島県
尾道市立
重井中学校

ZOOM時代の遠隔授業 小学校2年生 国語 スイミー 令和2年6月

海と博物館研究所 東京大学海洋教育センター

絵本に出る生物の質問回答

大分県 日田市立 高瀬小学校



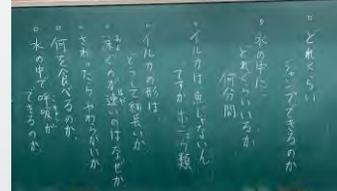
絵本の生物を水族館で撮影 PPTで画面共有



ZOOM時代の遠隔 小学校2年生 音楽+生活科 イルカはざんぶらこ 令和2年7月



音楽
教科書



質問
板書



教室
電子
黒板

提言と課題

- 常にバージョンアップされていく通信環境や機器に追いつく。
- 館の学習素材のデジタル化が急務。
- デジタル機器の活用スキルを磨く。
- 情報は館の外へ積極的に発信するという意識。
- 学校教育の情報化は著しい。一人1台のタブレットの時代。
- 専門性の教育だけでなく情報教育としての学びも。
- 館を身近に感じることで地域の学校の訪問動機になる。

情報化を見据えた博物館教育を！

【論点1】 ポストコロナ時代の博物館としてふさわしいインフラ整備とは何か。

- オンライン配信事業のためのインフラの整備・事業の収益化
- 感染症予防対策等、不測の事態へ対応するための対策
- 国立文化施設における上記への対応

【論点2】 教育普及、地域との連携、人材育成等をどのように考えるか。

- オンラインの活用や感染症予防対策を施したアウトリーチ活動、地域との連携

【論点3】 ポストコロナ時代の博物館として、文化観光や国際交流をどのように考えるか。

- 博物館等における文化観光の推進、文化施設・文化資源の高付加価値化の促進
- 「ICOM京都大会2019」を契機とした国際交流の促進、日本文化の発信機能の強化

論点1：ポストコロナ時代の博物館としてふさわしいインフラ整備とは何か。

【検討の方向性】

- 新型コロナウイルスの影響により、文化施設はこれまでの「生」公演や「生」展覧による活動収益に「配信」等による活動収益と組み合わせた収益モデルに移行せざるを得ない状況
- 地域の文化発信拠点として、「新たな日常」を支える文化施設の活動を支援し、文化芸術の灯を守り発展・継承させるため、文化施設の「新たな活動」の取組支援及びその環境整備を行う

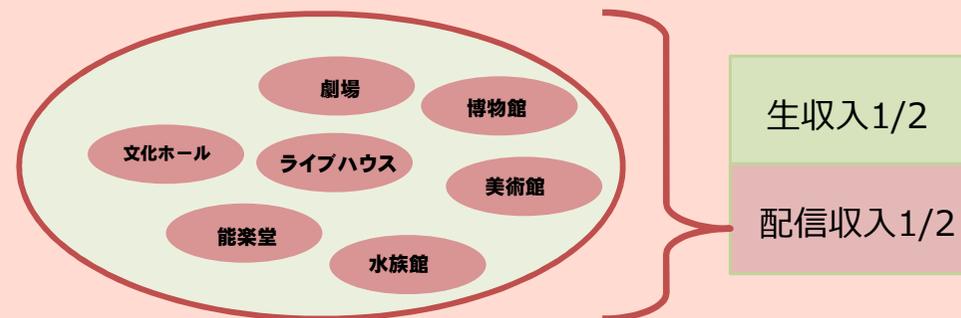
【具体の取組例】

公演・展覧会等の配信への支援

- 文化施設の配信等の「新たな活動」の支援及びその活動の環境整備を行う
- 配信する公演や展覧等の経費も支援。解説等の説明も含み、多言語化も推奨

発信プラットフォームの構築

- 民間団体と連携し、文化施設の公演や展覧等の配信の取組を発信するプラットフォームを構築
- 国内外への日本文化の発信サイトとして、学校教育の教材として、さらには観光プランとして活用



「新たな日常」を支える文化施設の活動(イメージ)

○ 劇場等 (舞台芸術関係)

(舞踊) バレエ・日本舞踊

- ・ 動画配信
- ・ テレ稽古
- ・ モーションキャプチャとVR技術を用いた舞踊教育支援システム

(伝統芸能) 歌舞伎・文楽・能

- ・ 動画配信
- ・ VR歌舞伎

(演劇)

- ・ 配信チケット おひねり
- ・ VR演劇

(音楽) オーケストラ・オペラ・合唱その他

- ・ 動画配信サービス (LIVE、アーカイブ)
- ・ 公開ゲネプロの公開
- ・ 再現映像・音声でのLIVE
- ・ ネットワーク合奏
- ・ オーケストラの一員になったような没入感のVR

(大衆芸能) 落語・奇術・朗読・琉球芸能・コント

- ・ 双方向LIVE配信
- ・ 落語初心者向けに仮想落語家体験を提供するバーチャル高座システム

○ 博物館等

○ 自宅にしながら博物館の中を自由操作体験

- ・ バーチャル展示
- ・ 建物・展示空間のVR再現による建築物としての魅力鑑賞

○ アバターを通じた体験プログラム

- ・ 遠隔コミュニケーションサービス「IoA仮想テレポーテーション」の活用。

○ 絵画の世界を体験

- ・ モノクロ写真や絵画のデジタルリメイク

○ 学校に出張バーチャル授業

- ・ 博物館と学校の教室をつなぎ、バーチャル授業を開催。- 45-



【検討の方向性】

- 感染の再拡大のリスクを踏まえ、文化施設においても引き続き、感染症予防対策を実施する必要がある
- 一次補正予算において措置した「文化施設の感染症防止対策事業」と同様、文化施設における感染症予防のための取組を支援する

【具体の取組例】

文化施設の感染症防止対策支援事業

1) 文化施設感染症予防等事業

全国の劇場・音楽堂、博物館等の文化施設が発熱者確認のためのサーモグラフィーや会場の換気を行うための空気清浄機等の感染症予防経費、公演再開時の環境整備を支援



「時間制来館者を導入している博物館」

2) 時間制来館者システム導入支援

博物館の「時間制来館者システム」は、混雑緩和に効果が高く、今後普及を図るべきシステムであり、チケットレス化も合わせたシステム導入の経費を支援

◎アーティゾン美術館

◎川崎市藤子F不二雄ミュージアム



【検討の方向性】

- 国立文化施設においても感染症予防対策を進めるとともに、オンラインの取組等の「新たな日常」を支える文化施設としての機能を整備する

【取組例】

国立文化財機構・国立美術館・国立科学博物館

- 感染症予防対策
- デジタルアーカイブの推進
- コロナ等の緊急時の活動継続のためのICT環境の整備

国立アイヌ民族博物館

- 感染症予防対策
- 教育関係者向けWEB動画制作・配信
- 特別展の強化・充実（VRコンテンツの作成等）

論点2:教育普及、地域との連携、人材育成等をどのように考えるか。

【検討の方向性】

- 博物館における教育・普及活動にあたっては、十分な感染症予防対策を実施する必要があるため、感染症予防対策とともに、オンラインの活用も推進する

【具体の取組例】

地域と協働した創造活動支援事業

博物館が核となって実施する地域文化の発信や、子供、学生、社会人等あらゆる者が参加できるプログラム、学校教育等との連携によるアウトリーチ活動、新たな機能の創造等を支援。

1. 地域文化の発信の核となる博物館
・博物館の情報発信，相互連携 等
2. あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動・人材育成
・小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成（地域の子供を対象とした取組等）
・大学と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発
・社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施
・障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業
3. 新たな機能を創造する博物館
・観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動 等

【平成30年度取組例】



保育園へのアウトリーチ活動



中学校へのアウトリーチ活動



特養老人ホームのワークショップ



市営団地でのワークショップ



博図公連携モデル（巡回展）



日本美術会議（欧米専門家等）

感染症予防対策

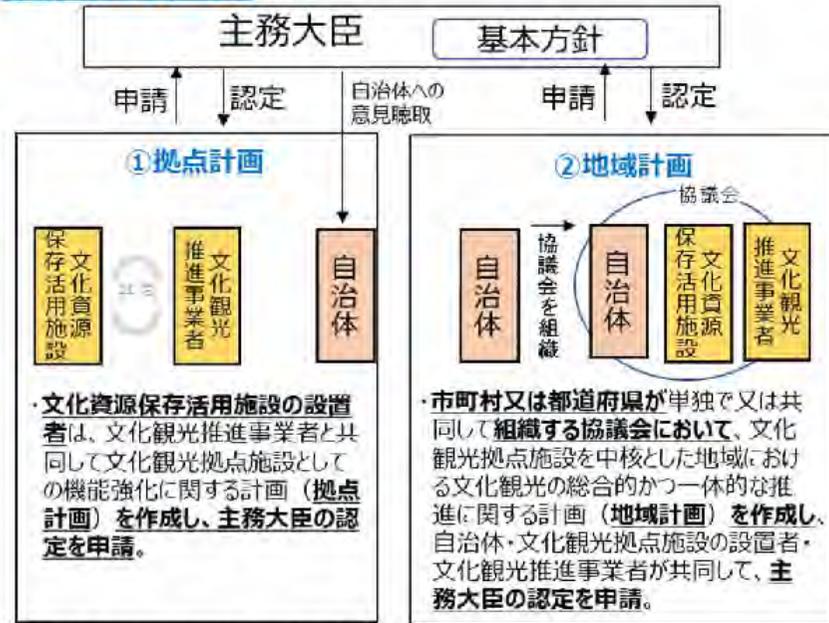
オンラインを通じた活動の実施

論点3:ポストコロナ時代の博物館として、文化観光や国際交流をどのように考えるか。

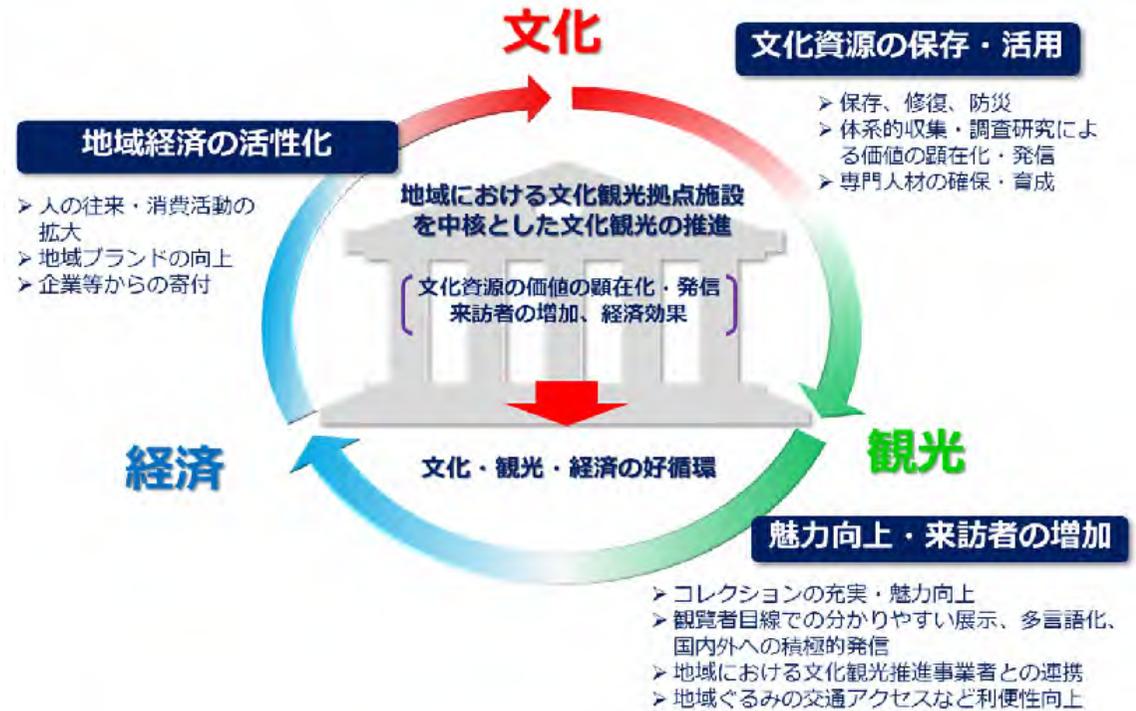
文化観光推進法の趣旨

文化・観光の振興、地域の活性化には、文化についての理解を深める機会の拡大及びこれによる国内外からの観光旅客の来訪促進が重要。文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進するため、主務大臣（文部科学大臣・国土交通大臣）による基本方針の策定、拠点計画・地域計画の認定、これらの計画に基づく事業に対する特別の措置等を講ずる。

法案のスキーム



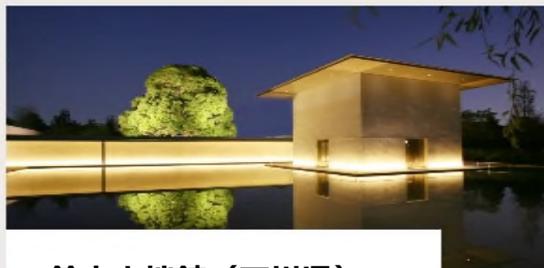
文化資源保存活用施設：博物館、美術館、社寺、城郭等
 文化観光推進事業者：観光地域づくり法人（DMO）、観光協会、旅行会社等
 文化観光拠点施設：文化資源保存活用施設が、文化観光推進事業者と連携し、文化についての理解を深めるための解説紹介を行う



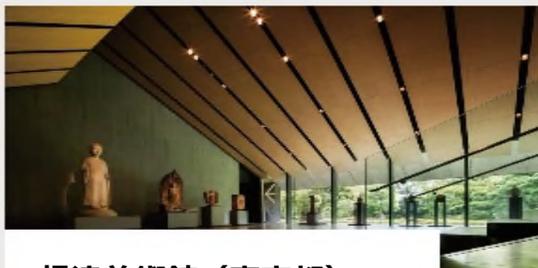
令和3年度要求に向けた検討の方向

- ・全国各地への展開 ※R2年度に25件程度を「博物館等を中核とした文化クラスター推進事業」において支援
- ・支援内容の充実 ※計画の策定のための支援、好事例やノウハウの普及、専門家の派遣、コロナ対応等についても検討
- ・文化施設・文化資源の高付加価値化の促進

文化施設・文化資源の高付加価値化の促進



鈴木大拙館（石川県）



根津美術館（東京都）



大宮盆栽美術館（埼玉県）



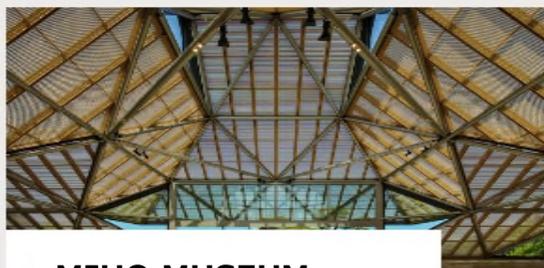
足立美術館（島根県）



大原美術館（岡山県）



ホキ美術館（千葉県）



MIHO MUSEUM
（滋賀県）



彫刻の森美術館
（神奈川県）



金沢21世紀美術館
（石川県）

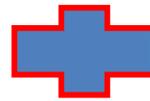
R2 施策

「ICOM京都大会2019」を契機としたレガシーの形成

- ・ 博物館制度の調査研究
- ・ PPP等による持続可能な博物館運営の研究
- ・ 海外ネットワーク構築

専門人材の養成と質の向上

- ・ 学芸員の資格認定試験
- ・ 学芸員等の研修（館長研修、専門研修、マネジメント研修、エデュケーション研修、学芸員の海外研修）



新型コロナウイルス対応

- ・ 最先端技術を活用した収益力の強化
（オンライン展覧会やリモート教育事業等）

東京オリンピック・パラリンピックを契機としたレガシーの形成

- ・ 日本文化の発信機能の強化
（国宝、重要文化財等の貴重な文化財やその高精細レプリカ等を活用した展覧会やシンポジウムの開催等）

飛騨みやがわ考古民俗館

緊急事態宣言下でオンラインツアーをライブ開催。約200名の参加者とコミュニケーションを取りながら、山間の小さな博物館を紹介



長崎県美術館

釜山市立美術館と連携し、テレビ会議システムを利用して同美術館と長崎県内の学校を結び、遠隔授業を実施



奈良県

奈良を代表する社寺より、国宝・重文等の19点を大英博に出陳。大英博が所蔵する8点を併せて展示
会期：2019年10月3日～11月24日
主催：奈良県、大英博物館
来場者数：約16万人（53日間）



福井県立美術館

スーパークローン文化財展
（東京藝術大学で開発された超高精細な文化財の再現作品展）
会期：2019年7月12日～8月25日



新しい政策課題

令和3年度要求に向けた検討の方向

ポストコロナ時代の持続的な国際交流モデルの構築

- ・ 海外の博物館制度、博物館運営の調査研究
- ・ 海外ネットワーク構築

- ・ 学芸員等の相互派遣
- ・ 共同調査・研究
- ・ シンポジウム等の相互開催

- ・ オンライン展覧会
- ・ リモート教育事業
- ・ デジタルアーカイブ

- ・ 文化財等の相互貸借、展覧会等の相互開催
- ・ 文化財等のレプリカ製作

大阪市立科学館とドイツ博物館の連携

【枠組み】

- ・ ドイツ館資料を使った将来の企画展の実施に関する合意（2017）

【連携事業】

- ・ 学芸員派遣
- ・ 共同研究
- ・ 資料貸借・展覧会開催（予定）

【連携効果（大阪市立科学館）】

- ・ 海外の先進館の動向を把握
- ・ 市立科学館の取り組みを海外に展開
- ・ 共同展示と研究により館活動が充実



ミュンヘンのドイツ博物館
1903年に設立された世界最大級の科学博物館



ドイツ博物館でのサイエンスショーで実演を行う大阪市立科学館の館長

北海道博物館とロイヤル・アルバータ博物館（カナダ）の連携

【枠組み】

- ・ 友好館に関する覚書（1998）
- ・ 共同研究に関する覚書（2000）

【連携事業】

- ・ 学芸員相互派遣
- ・ 共同研究
- ・ 資料貸借・展覧会開催（予定）

【連携効果】

- ・ 研究テーマの近い両館で研究成果を最大化
- ・ 共同研究によりコレクションの新たな価値を創出



アルバータ州の州都、エドモントンのロイヤル・アルバータ博物館



アルバータ州の展示施設でメティスの文化を調査する北海道博物館の学芸員